

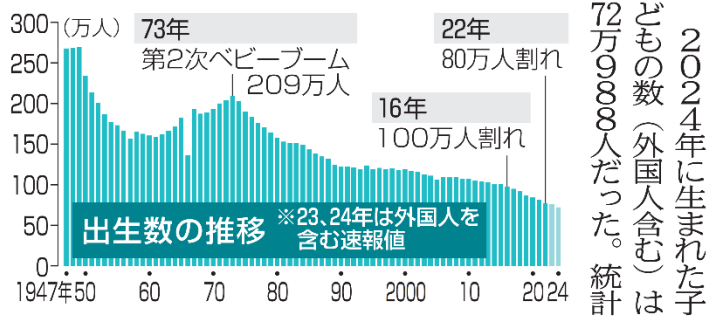
年 月 日 /

学校 年 組 番 名まえ

【問1】 1947年以降で出生数がもっと遠かったのは何年？

【問2】 政府が、出生数が72万人台になると想定していたのは何年？

【問3】 2024年の茨城県内の「自然減」は何人？



出生最少72万人 24年自然減最大89万人

2024年に生まれた子どもの数(外国人含む)は72万9888人だった。統計を取り始めた1899年以降で最少。23年より3万7643人(5・0%)減り、9年連続で最少を更新した。全都道府県で減少した。死亡数が出生数を上回る「自然減」は89万7696人で過去最大。少子化は政府想定より15年速いペースで進んでおり、歯止めがからない状況だ。

(3面に関連記事)厚生労働省が27日、人口動態統計の速報値として発表した。今後発表する日本人だけの出生数は初めて70万人を割る可能性が高まっている。

物価高で子育てへの経済的不安が高まったことや、未婚・晩婚傾向が進んだことが背景にあるとみられる。婚姻数が新型コロナウイルス禍で大幅に減ったことも響いた。厚労省は「結婚や子育ての希望を阻む要因が複雑に絡み合っている」と説明した。

国立社会保障・人口問題研究所の将来推計(中位推計)では、外国人を含む出生数が72万人台になるのは39年と見込んでいた。日本人だけの出生数は、厚労省

が6月ごろに発表する。速報値との差が23年と同様の傾向なら、24年は69万人前後にとどまる計算だ。

24年の死亡数は2万8181人増の161万8684人で過去最多。高齢化に伴い、4年連続で増加した。婚姻数は49万9999組。90年ぶりに50万組を割った23年より1万718組増えたが依然低迷している。

人口減で働き手が少なくなれば、企業や自治体はサービスを維持できなくなる恐れがあり、医療や年金といった社会保障制度に

県内最少1万4843人

本県で2024年に生まれた外国人を含む子どもの数(出生数)は前年比752人減の1万4843人で、過去最少だったことが27日、厚生労働省の人口動態統計(速報値)で分かった。死亡数は1369人増の

も打撃となる。政府は30年までを「少子化反転のラストチャンス」とし、児童手当の拡充などを打ち出した。

3万9288人で、死亡数が出生数を上回り、2万445人の「自然減」となった。婚姻数は前年比39件増の9437件、離婚件数は同100件増の4221件。死産数は7人減の295人だった。

2025年2月28日付
(共同通信社配信含む)



よ 読めない文字は、かざくや、ともだちにきいてみてね